

# 西多摩農業改良普及センターからのお知らせ

## 遅霜被害の対策について

普及指導員 岡村 亮



春や秋は、移動性高気圧と低気圧が交互に日本付近を通過し、天気は数日の周期で変わります。移動性高気圧は乾いた空気と晴天をもたらしますが、夜間には気温が下がり、春や晩秋には霜が降りようになります。春の遅霜や秋の早霜はともに農作物に大きな被害をもたらします。

移動性高気圧に覆われた場合、夜間の地表面の温度は気温(地表面から1.5mの高さで観測)より低いので、気温が3℃以下の時に霜が降りることが多くなります。今回、野菜と果樹それぞれの遅霜対策の事例をいくつか挙げますので、対策が十分できているかご検討ください。

気象庁では、9日先までの降霜の予報をホームページに掲載しておりますので、降霜前にできる限りの対策を講じておきましょう。

### ～野菜編～

#### [遅霜前の対策]

- ①露地では、霜害の発生が予想される場合には不織布や寒冷紗等で被覆する。  
その他、品目別の露地での霜害対策(一例)は以下のとおり。

#### ダイコン、ニンジン、ジャガイモ、 タマネギ、ニンニク

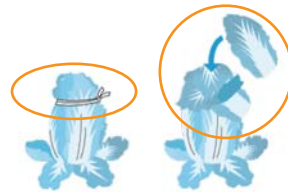
- ・株元に土寄せする。
- ・株元に敷き藁やもみ殻等を敷く。



画像:タキイ種苗(株)ホームページより転用

#### ハクサイ

- ・球を包むように外葉を立て上げ、頂部をプラスチックテープ等でしばる。
- ・不用な外葉を、球の頭上に3~4枚かぶせる。



#### ナス、エダマメ等

- ・トンネル栽培では、ビニール等の保温力の高い被覆資材を利用して、密閉し温度を確保する。

※気象情報を確認し、気温が上昇する日中は、ビニールの裾をめくり上げ、換気する(晴天では、被覆資材下の温度が急上昇し、高温障害が発生する恐れがあるため)。

- ②ハウスでは、事前に暖房器具の稼働点検を行う。
- ③ハウスの開口部を早めに閉めて室温を確保する。ハウスの開口部に近い作物が低温障害を受ける危険性が高いため、循環扇を活用しハウス内の温度が均一になるようにする。
- ④ハウス内の温度の急速な低下により、湿度が高まり病害が発生する危険性があるため、作物が低温障害を受けないよう留意しながら短時間の換気を行う。
- ⑤凍結による配管の破損を防ぐため、水抜きや配管の露出部に保温資材を巻き付けるなど、適切な凍結防止策を講じる。

#### [遅霜後の対策]

- ①不織布等で被覆した場合、翌朝除去が遅れないようにする(湿度上昇や日照不足を避けるため)。
- ②生育状況や気象予報を見ながら追肥や灌水等を行い、草勢の回復を図る。
- ③被害を受けた場合、損傷部からの病害の発生が懸念されるため、予防(薬剤散布)を徹底する。

### ～果樹編～

#### [遅霜前の対策]

- ①冷気の停滞は霜害の発生を助長するため、防風樹等で冷気が停滞するような場所は通気性を確保する。
- ②土壌が乾燥していると地温が下がりやすいため、その場合は散水する。散水は、日中の温度が高い時間帯に行い蓄熱させる。
- ③敷き藁等のマルチは果樹園内の地温上昇を抑制するため、凍霜害の恐れがなくなるまで利用しない。

#### [遅霜後の対策]

- ・被害枝は、被害程度を確認し枯死した部分を剪除する。
- ・被害を受けた場合、損傷部からの病害の発生が懸念されるため、予防(薬剤散布)を徹底する。